

令和3年度 海田東小学校 学校評価自己評価表

学校教育目標 考え実践する 海田東っ子 笑顔・あいさつ・思いやり（EAO）
 —「よく学び」「よく遊び」「やさしく強く」—

中期経営目標	短期経営目標	取組・評価項目	評価指標	評価基準				自己評価			
				A	B	C	D	中間値	評価	結果と課題の分析	
				目標達成	ほぼ達成	もう少し	できていない				
知	・確かな学力を身に付けた児童の育成	・「海田町標準学力調査」(CRTの結果)	・「海田町標準学力調査」全国平均正答率との比較(全国平均正答率以上の教科の割合)。	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	/	/	・のびっぴタイムの計画的な実施や給食前学習を実施することにより、学力の補充を行い、基礎的事項の定着を図る。 ・授業改善に向けて、ノートづくりや思考を可視化する板書の工夫等の研修を行う。	
	・授業で深く思考する児童の育成	・振り返りを通して、主体性、自己理解を高める授業の実施	・児童アンケートにおける、「学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由を考えています。」の児童の割合。	80%以上	75%以上	70%以上	70%未満			児78%	B
徳	自分や友だちの思いやりのよさを認める子	・児童の自己肯定感を高める	・行事等における「よいところ見つけ」の取組 ・児童の自己肯定感を高める日常の取組	・児童アンケートにおける、自分にはよいところがあると考えている児童の割合。	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	児79%	B	・通常通りに行事を実施できなかったが、自分のよいところ、友だちのよいところ見つけを行うことができた。 ・今後、行事が増えるので、機会をとらえてよいところ見つけを実施する。その際、目的を児童に明確にもたせるようにしていく。 ・授業の中でも、指導者が児童を認めたり、児童同士で認め合う機会を設けることを共通認識として取り組んでいる。 ・帰りの会等での日常のよいところ見つけも継続していく。
		・時と場に応じた挨拶ができる児童の育成	・あいさつ運動の実施	・児童および教師アンケートにおける、「あいさつや会釈をしている」児童の割合。 ・保護者・地域アンケートにおける、「わが子(海田東小児童)は、あいさつや会釈をしている」と考えている保護者・地域の割合。	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	児教保地 87% 63% 82% 81%	B	・児童のあいさつへの意識の高まりがみられる。また、地域や保護者の方からのアンケートで80%を超えていることから、児童があいさつをしていることが分かる。 ・教職員の評価が低い原因として、児童が進んで挨拶をしている場面が少ないことが考えられる。今後は、自ら進んで挨拶できるように児童委員会の取組を中心に進めていく。
		・場を美しく整えようとする児童の育成	・熱動流汗清掃の指導の取組	・児童および教師アンケートにおける、熱動流汗清掃をしている児童の割合。	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	児教 83% 84%	A	・1学期から毎週水曜日を熱動流汗清掃の日と決めて取り組んでいる。徐々に意識して取り組める児童が増えてきている。 ・今後も美化委員会の取組も続けて、児童の主体的な取組にしていく。
体	進んで健康・安全を考えた子	・基本的な生活習慣の定着に取り組み、元気に過ごそうとする児童を育成	・基本的な生活習慣徹底のための指導の取組	・生活リズムカレンダーでの「早寝ができた」の割合。	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	72%	B	・学期初めに生活リズムカレンダーの取組を行うことで生活習慣の見直しを図ることはできた。しかし、就寝時間の目標設定をすることや生活習慣を直すことなどはまだ身に付いていない児童が多いため、職員や委員会活動を通して、正しい生活習慣を身に付けるための啓発を強化する。
		・人や自分の命を大切に、安全に生活しようとする児童の育成	・外遊びの指導の取組	・児童および教師アンケートにおける、「1日に1回は外に遊びに出ている」児童の割合。	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	児教 79% 84%	B	・感染症対策により休憩時間を分散したことで外に出る機会が少なくなってしまった。分散休憩が解消されたため、外で遊ぶ児童は増加傾向にある。1日に1回は外に出て遊ぶよう声掛けをしていくとともに、ロング昼休憩などを活用して外遊びの奨励を図る。
		・避難訓練・防犯教室・SNS教育の取組	・避難訓練・防犯教室・SNS教育の取組	・児童および教師アンケートにおける、自分の命を守るための安全な行動の仕方が分かっている児童の割合。	90%以上	85%以上	80%以上	80%未満	児教 93% 84%	B	・感染症対策により、避難訓練等が簡易化されたため、児童自身の動きが減っている。実際の有事の際に動けるよう、事前・事後指導の充実を図る必要がある。
信	信頼される学校	・迅速・誠実・丁寧な対応、意図的、計画的な家庭訪問の実施	・保護者アンケートにおける、学校の取組を信頼できると考えている保護者の割合。	90%以上	85%以上	80%以上	80%未満	保地 97% 100%	A	・2回の児童情報交換会を行い全教職員での情報共有を行うとともに、毎日の児童の様子を学年主任・生徒指導主事・管理職へと伝えることを徹底した。このことは、組織として計画的・意図的に家庭との連携を進めるための基盤となっている。	
		・HP、学校・学年だよりによる情報の発信	・HPを2回以上更新。 ・学校だより、学年だよりを月1回以上発行。	90%以上	85%以上	80%以上	75%以上	100%	A	・学校だより、学年だよりの発行は、どのたよりも、目標となる1か月に1回を基準とした際、100%以上の発行率であった。 ・HPの更新については、月平均2回以上は更新することができた。しかし、学年や項目により更新頻度や内容に差があり、今後、更新日を統一したり、内容を精選する等の工夫が必要である。	
		・保護者・地域を巻き込んだ授業の実施	・保護者・地域の方参加型の授業を各学年1回以上実施。	全学年1回以上	全学年1回	4学年	4学年未満	1学年(全学年が今後予定)	C	・感染症拡大防止に関わり、実施を延期してきたが、10月より地域との交流を再開した。1学期と合わせ、10月20日現在で、地域との交流を実施していない学年は、1学年だけである。 ・保護者参加型の授業については、9月末段階で実施した学年はないが、全学年とも、実施の方向で計画している。	
		・「児童と向き合う時間」を確保	・教職員アンケートで「児童と向き合う時間の確保ができています」の割合。	85%以上	75%以上	50%以上	50%未満	83%	B	・昨年度同時期のアンケートでの肯定的評価の割合63%から、20ポイントアップした。また、同時期の月平均の時間外勤務を比較すると、一昨年度が45.9時間、昨年度が46.2時間、今年度が40.3時間であった。	